

児童を対象とした Can-Do リストの作成

—英語キャンプでの実践から—

武藤 克彦

(東洋英和女学院大学)

1. はじめに

本発表においては、英検4級と同等の英語力を有する小学3～6年生（計189名：3年生：23名、4年生：30名、5年生：43名、6年生：84名）が参加した6日間のキャンプ（English only）における Can-Do 調査の結果を提示したい。

2. 研究方法

参加児童に、①キャンプ前後、および②毎日の終わりに Can-Do リスト上にて自己評価に取り組みさせた。参加児童の英語レベルに合わせ「英検 Can-Do リスト（4級）」をベースに、各キャンプ活動（言語活動）の主眼を考慮し、20（各スキル5つ）の Can-Do 指標（CDS）からなるリストを作成した。長沼（2011）は、小学生を対象とした Can-Do リスト作成において、自己の学習内容について自由記述をさせること重要性を説いているが、本研究では各 CDS を4段階のリッカート尺度から自己評価するように促すことに加え、②に付随する日々の振り返りシートでは自身の学習について自由記述を促すコメント欄を設けることでより詳細なデータ収集を試みた。

3. 結果

上記①の分析の結果、参加児童の自信の観点から7つの CDS において顕著な変化が見られた。リスニング（1 CDS）、スピーキング（1 CDS）、リーディング（2 CDS）、ライティング（3 CDS）という、ライティングにおける自信の変化が顕著なのが興味深い点であった。また、振り返りシートの分析からも結果を補足する興味深い変化や内省、自己効力感に関する記述コメントも見つけることができた。

4. まとめ

文科省により「生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標を「CAN-DO リスト」の形で具体的に設定する」ことが推奨され、主に中学校・高等学校に追従する形で小学校における試みも始まっている。本ポスター発表では、児童を対象とした Can-Do リスト作成の際に考慮すべきポイントを紹介するとともに、英語キャンプを含む短期集中型英語学習が小学校英語教育に果たす役割について議論したい。

参考文献

長沼君主（2011）。「小学校英語活動における自律性と動機づけを高める Can-do 評価の実践」『ARCLE REVIEW』第5号, 65-74.